

15 将来的にも介護サービスは利用できる？



Q 少子高齢化で高齢者が増えるのに介護サービスの人手不足も進んでいて、家族を介護することになったときや自分が介護を受けることになったときにどんな制度に変わっているのか不安です。
[60代]

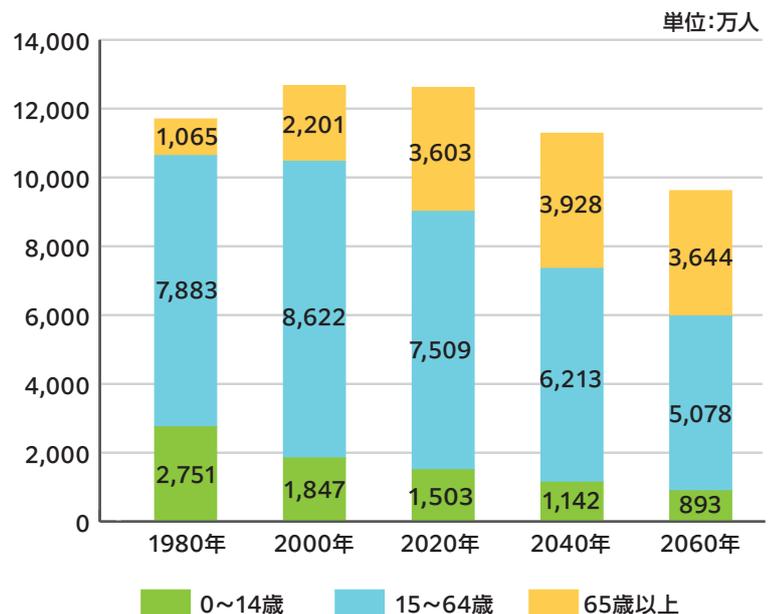
A

不安ですね。おっしゃるとおり、今のままの介護保険制度の維持は難しいかもしれませんが、制度外のポジティブな変化にも期待しながら、今できる介護への備えを前向きにすすめていきましょう。生協もそのお役に立ちたいと思っています。



人口構造の変化の将来推計

推計では、高齢者人口(65歳以上人口)は、2045年頃まで毎年少しずつ増加し、その後は減少していきます。一方、生産年齢人口(15~64歳人口)は、今後も毎年数十万人規模で大きく減少していきます。



※内閣府「令和6年版高齢社会白書」をもとに作成。2020年までは国勢調査にもとづき、2040年からは推計にもとづく。

社会と個人の 受けとめの変化への期待

介護は今はまだ、例えば育児ほどには、気軽に話題にして悩みを分かちあいにくかったり、課題として十分な対策がとられていなかったりという状況にあります。しかし今後、介護を受ける方がさらに増え、仕事や育児をしながら介護する方も増える中で、社会の受けとめも変わっていくでしょう。

組合員からのアドバイス!

今後に備えて、親とはなるべく連絡を取りあい、親の生活にこれから何が必要なのかや、病気の様子や地域とのかかわりなどを知っておくことは、とても重要です。将来、自分も介護される側になることを念頭に備えておきましょう。[50代]



元気な高齢者の活躍

健康寿命の伸びにより(→7)、元気な高齢者が他の高齢者を支える場面が増えてきています。元気な高齢者の地域での活躍によって、家族や社会による介護の困難を地域が補うことが期待されます。また、それによって、介護がより開かれたものになることも期待できるかもしれません。

制度の変化にかかわらず、 介護への今できる備えを

2000年に介護保険制度が誕生したことによって、家族のものとしてきた介護の社会化が進みました。これも大きな変化でした。介護をめぐる制度や状況は今後も変化していくでしょうけれど、介護のある暮らしを前向きに過ごせるよう、今できる備えを進めましょう。

≡ 本誌で介護への備えのヒントを ≡

本誌には介護への備えに役立つ、さまざまなヒントを掲載しています。ぜひご活用ください。

- 介護について知ることや相談すること → 1 2 3
- 健康づくりやつながりによる介護予防 → 7 8 19
- 民間介護保険による経済的な備え → 5
- 介護前～介護中のコミュニケーション → 9 16 17 18 20 21
- 介護する方の暮らしと介護の関係 → 22 25 27 など

ヒントにして
ほしいのだ!

